（第三種郵便物認可）第４４３号（通巻第642号）毎月１回15日発行

今号の記事

全国で年金一揆・宣伝…２面／むしろ旗川柳大賞…３面／北から南から…４・５面／みんなの広場…６面／年金者文芸・パズル…７面／わが支部／わが町／旅・たび（小樽支部）…８面

年金者しんぶん

第443号　2026年11月15日（日）
（通巻第642号）
全日本年金者組合中央本部
〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル
発行人　岩崎　勇　月刊１部100円（組合費に含む）
昭和57年６月30日第三種郵便物認可
2026.9月　組合員数92,862人　連絡先☎03(5978)2751　FAX03(5978)2777　honbu@nenkinsha-u.org　ホームページ／年金者組合で検索



全国で年金一揆・宣伝

全日本年金者組合は、10月15日の年金支給日を中心に「年金一揆・宣伝」に決起しました。大分県本部は、大分駅前の大型ビジョンがある「祝祭の広場」で。集会前には大型ビジョンに日本テレビＮＥＷＳで放映された「年金生活者の実情」を映し出し、その後合唱団による「うたごえ」で盛り上げ、参加者全員でスタンディングアピールを行いました。（関連記事２面）

北海道本部
清田支部

仲間づくり連続拡大かなめは「役員の団結」



左から内藤悟執行委員、多田和夫執行委員、斉藤正樹書記長、妹尾裕司支部長、田中敏夫書記次長、高嶌東亜子女性部長、平田紀代美執行委員

北海道本部札幌清田支部の執行委員会にお邪魔しました。清田支部は、昨年3月の大会から仲間づくりで毎月連続拡大を続けています。

◇　◇

札幌清田支部は、コロナ禍などの影響もあり、一時組合員は、87人まで落ち込みました。しかし、2025年3月の大会以降、毎月の拡大行動などで少しずつ仲間を増やし、26年4月の定期大会では、久しぶりに100人を超える組合員（103人）に達しました。仲間づくり月間だけでなく、毎月の執行委員会で組合員拡大のための統一行動日を決め、参加した執行委員がみんなで対象のお宅を訪問するなどして増やしてきました。

妹尾支部長は、「みんなで大挙して押しかけて圧力をかけます」、と笑いますが、対象者を上げ、コツコツと粘り強く取り組み、昨年は、4月の定期大会で掲げた目標を12月に達成させた、その粘り強い努力は並大抵のものではありません。

◇　◇

活動の中心は、やはり「事業活動（楽しみ活動）」と「サークル活動」が車の両輪です。

4月の定期大会と懇親会には、7割の組合員さんが参加しました。5月の「梅見会」、9月には「長寿を祝う会・新組合員歓迎会」、10月は、「うたごえ喫茶」、「紅葉を楽しむハイキング」、（ことしは荒天のため実施することができませんでした）そして12月の「年金学習会と望年会」。誕生月のカードを届ける活動は5年目になります。

サークルは、パークゴルフ、絵手紙、麻雀、卓球、知の泉、合奏クラブ「どっこいしょ」、資本論研究会、など多彩です。

◇　◇

10月20日の支部執行委員会。妹尾支部長の司会でテキパキと課題の議論がすすみます。感心するのは、それぞれの課題ごとの議論で必ず支部組合員の仲間の動向などが話されること。一人ひとりの組合員さんへの思いやりが感じられます。仲間づくりの対象者はどうかもあわせて議論されます。



テキパキすすむ執行委員会



５月梅見会で

途中、仲間づくりの秘訣についてお聞きしました。「強いて言えば、サークルへは執行部の誰かが必ず参加、執行委員会で話し合い、拡大の対象者を議論、しつこく（笑）加入をよびかけることかな」、と妹尾支部長。「要（かなめ）は粘り強さと執行部の団結」が最大の教訓だと思いました。

（記事／宇内敏哲）

力を合わせて乗り越える

風雪

公的年金で私たちの老後の生活は守れるのか？▼年金者組合中央本部・厚労省交渉（10／26）でこんな質問が。金融庁は、老後に2千万・3千万円自分で用意しろというが厚労省の見解は？▼厚労省日く。中心的な所得保障だが、第1に長く働くこと、第2に私的年金に入ること、そして第3に公的年金。この三つを柱に老後の生活をせよ。完全に自己責任の世界▼えー！年金で生活ができるとは厚労省も考えていない。だから年金は上がらないのだと改めて認識。これじゃー社会保障でもなんでもない▼秋の仲間増やし月間。年金一揆・支給日宣伝。「一人暮らしの自分にはこうした団体が必要」「年金だけじゃ食べていかれない！年金者組合の活動は素晴らしい」とその場で加入する方があちらこちらで▼豊かで安心な老後の生活ができる公的年金を実現するためにも仲間を増やそう。（是）